



食事を共にする

日々の暮らしの中から②

イギリスに学生たちを、さらに太りそうであるが、研修に連れていっている。す」とある。娘から、連日、絵ハガキが届く。

最初の絵ハガキに「お父さんたちが若いころ聖地を旅した時、連日、絵ハガキが届いたのを思い出して、私もそうします」とある。

今回届いた絵ハガキは掲載のものだ。「イギリスで一番おいしいものは朝食という人が多いです。ホテルは朝食付きで、卵、ソーセージ、ベーコン、マッシュルーム、焼きトマト、いんげん豆の

トマト煮、加えてパン、コーンフレイク、ヨーグルト、果物などなど。これだけあれば一日安心で帰って夕食となると夜遅

くなり、それが太る原因だろう。しかし、ポルトガルなどの中年婦人などに比べると愛敬と思えるし、長女も余り気にもしない。とにかく食欲があり、おいしく食べられるのはうらやましい限りである。長女はパレスチナで10年余を過ごす前、NGO「地に平和」代表の大田道子さんから約1年間、おいしい料理の作り方を仕込まれた。そのせいか、料理上手な妻を越えている。妻ももちろん、それを認めている。帰宅した際も、冷蔵庫にあるものをうまく組み合わせさせて手際良く作る。今回もイギリスから帰国後、3連休を利用して帰ってくるそうだが、その時は次女と孫、長男一家も必ず集まって食事をやる。

妻も不自由な体で食事の準備をする必要もなくなる。我が家にとつて長女は有り難い存在である。ちなみに得意料理はスペインのパエリアとパレスチナ料理のマクルーベである。次女は作るよりも食事の後片づけがうまい。姉妹といっても違うものである。だから次女が帰宅したとき、長女の帰宅が待ち遠しい。

私の希望で回転寿司が多い。理由は食べられない時は1皿で止めればよく、無駄が少ないから。先日、妻と2人で外食したが、妻の注文の力ツカレーを2人で食べてちょうどいい。しかし1人前だけ注文するわけにもいかず、仕方なく力ツ水も注文したが、これも無理して食べる

と体に良くないので、世帯には食べられない人が多くいると思いが残す。とにかく、家で食事を家族や友人と食事をするのは大切なことだ。だから孤食には反対。

聖書の中にも食事を共にすることの大切さが書かれている。カトリックにしろ、プロテスタントにしろ、毎週日曜日は教会に行く。これは食事を共にするためである。一番大切なミサは食事を共にすることを表す。すなわち、最も重要な行為「最後の晩餐はスペインのパエリア(ばんさん)の再現だ。

イエスはパンを取り、「これは私の体である。また、ブドウ酒を取り、「これは私の血である。これを私の記念として行え」と弟子たちに言う。人間が永遠の命に生きるためには、食事を共にすることだと教えていると私は解釈している。長女の帰宅が待ち遠しい。

There's only one thing to do after a Full English Breakfast...



go back to bed and sleep it off till lunchtime!



娘から送られて来た朝食、ハイキングの絵ハガキ

は外食が多く、帰宅が待ち遠しい。